

激闘のセンバツを終えて

赤鬼の春 64 選手のコメント紹介 ⑦



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

川瀬隼大君

応援団長の川瀬隼大君(2-4)は甲子園に出場したことを「春のセンバツに出場できたことは、学校全体を評価してもらえたということだ。センバツに出場できたことは成長につながったし、試合を通じて得られるものは多かった」と評価した。川瀬君は「学校全体で協力していただいたおかげで素晴らしい応援ができた。前からスタンドを見ると、とても迫力があつた」と応援を振り返った。また大変だったことを「今回の応援のテーマが声を出すことだったので、声で相手を圧倒できるようにしていた。それは難しかったが、一般の方にも声をかけて声を出してもらった」と挙げた。最後に川瀬君は「自分たちの力で夏も甲子園

西村圭輔君

に出たい。春に見つかった課題を克服し、成長して戻ってきた」と意気込んだ。

副応援団長の西村圭輔君

(2-5)は甲子園の応援を振り返って「花巻東戦では慶応戦での反省を活かして応援したので、より力強い応援ができたと思う。良いアルプスが作れてよかった」と笑顔を見せた。また「川瀬と一緒に応援していくなかで、みんなをまとめた。意見を交わしながら良い応援になるように工夫できたことが良かった点だと思う」と顔をほころばせた。西村君は「自分たちの応援がベンチまで聞こえていたように、試合後に選手から『大きな応援ありがとう』と

吉田康起君

言われた。選手たちに感謝してもらえような応援ができて本当によかった」と満面の笑みを浮かべた。最後に「センバツではチームの課題がいくつか見つかった。この大会ではベンチに入れなかったが、次はベンチ入りできるようにようにレベルアップしていきたい。夏にもう一度真っ赤なアルプスを作ってもらえるように頑張りたい」と熱意を見せた。

吉田康起君(2-2)は甲子園の試合を「慶応戦では負けている状況でホームランが出て、流れが一気にこっちに

来た。本当にすごい試合だった。花巻東戦は増居が9回までノーヒットノーランで抑えていた。何回かピンチもあつたが、アルプスの応援のおかげで乗り切れていた。最後に点を取られてしまったのは、まだまだ自分たちの力が足りなかつたからだと思う」と分析した。また「甲子園出場という目標に向かって練習してきたことが、二季連続出場につながったのだと思う。次も

草野快君

甲子園に出場するために、夏の大会での優勝を目指して頑張りたい」と語気を強めた。

草野快君(2-3)は夏春

連続で甲子園に出場したことについて「夏の甲子園は先輩たちに連れて行ってもらった。春は近畿大会で一勝したおかげで、ぎりぎりのところで選んでもらえた。今回の大会で一勝できたことはとても大きな自信になったので、今後この自信が生きてくると思う」と感想を寄せた。また甲子園の試合を「初戦を突破したのができた。今回のセンバツで課題が見つかったので、それを克服してまた甲子園に行きたい。とても良い大会だった」と締めくくった。最後に草野君は「間近にある春の大会では勝ち進んで近畿大会に出場したい。そこでも課題が見つかると思うので、それを克服して完成したチームを作りたい。自分は今回はベンチに入らなかったの次は選手として試合に出てプレーしたい」と今後を見据えた。